令和７年度　長崎国際大学　社会福祉学科　入学試験問題
編入学試験
小論文（国内Ｃ）
【問題】
　高齢者に対する不適切なケアは高齢者虐待として取り扱われるようになった。高齢者虐待問題に対しては、「高齢者に対する虐待の防止、高齢者の擁護者に対する支援等に関する法律」（以下、高齢者虐待防止法）が成立し、施行されている。
　そして、高齢者虐待防止法では、高齢者に対する保護の措置だけでなく、養護者の愚たんの軽減を図ったり、養護者に対して虐待を防止するための支援を行うことが規定されている。
　養護者の虐待に至る要因について述べた上で、養護者による高齢者の虐待の防止に資する支援にはどのようなものがあると考えるか。あなたの考えを800字以内で論ぜよ。

【模範解答】
　養護者が虐待に至る要因として、第一に介護負担が挙げられる。高齢者の認知症や身体機能の低下が進行する中で、排泄介助や夜間対応、徘徊への対応などが日常化すると、養護者は慢性的な疲労や睡眠不足に陥りやすい。介護の長期化は、精神的な余裕を失わせ、不適切な言動や対応の危険性が高まる。第二に、社会的孤立や相談先がないということもある。周囲に助けを求められないまま孤立が深まることで、心理的な負担が蓄積されていく。さらに、介護に関する知識や技術の不足、経済的不安、養護者自身の疾病やメンタルヘルスの問題など、複数の要因が重なり合うことで、虐待のリスクは一層高まる。
　こうした背景から、養護者による高齢者虐待の防止として、まず介護負担の軽減を図る支援が重要である。介護保険サービスの適切な導入やショートステイなどのレスパイトケアの活用により、養護者が一時的に介護から離れ、心身を休める時間を確保できるよう支援することが求められる。また、定期的な見守りや訪問を通じて養護者の状態や介護状況を把握し、負担が深刻化する前に支援につなげることも有効である。
　加えて、養護者が不安や苛立ちを安心して語れる相談支援体制の整備が不可欠である。養護者への否定や、責任の追及を行うのではなく、つらさや限界を受け止める姿勢で関わることで、養護者は支援を受け入れやすくなる。
　さらに、認知症への理解や適切な関わり方、コミュニケーションの方法を学ぶ機会を提供することで、介護に対する不安や戸惑いが軽減し、不適切なケアの予防につながる。
　高齢者虐待は、養護者個人の資質や努力不足とするではなく、支援の不足や社会的孤立が生み出す社会的課題として捉える必要がある。社会福祉分野の専門職は、養護者と高齢者双方の立場に寄り添いながら、多職種・多機関と連携し、見守りや支援を継続的に重ねることで、虐待を未然に防ぐ予防的支援を行うことが求められる。